（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が利用者の立場になって自分たちで作り上げた基本理念を共有している。 新しく入った職員にも、理念をしっかり伝え実践につなげている。	理念について玄関の目に付く所に掲示し来訪者に解るようにすると共に案内パンフレットに大きく掲載している。家族には利用契約時に細かく話している。「自分がその立場になった時の事を考える」を支援の柱とし理念を共有し実践に繋げている。理念にそぐわない言動等が職員に見られた時には振り返りの時を持ち、理念についてその都度話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の場で、地域の役員の方と情報交換をし交流できる方法を話し合っている。 日常的には散歩の時やスーパーに買い物に行くと気軽に挨拶してくださる。 管理者はキャラバンメイトであり、地域の活動に参加していきたい意思を市に伝えている。	区長から「どんど焼き」等の案内を頂き出掛けている。また、前区長に敬老会の席上「獅子舞」を披露していただき、前々区長には「大豆島菊・巴錦」の鉢植えを玄関前に飾っていただくなど、交流が続いている。行事に合わせ、「草笛」、「琴の演奏」等のボランティアが来訪している。また、職員の子供が来訪し利用者と楽しいひと時を過ごしており、今後も、子供達が普通に来訪し楽しめる環境作りを進めて行きたいという意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で役員の方の質問に答えたり、認知症の症状についてお話したなかで、地域の方に伝えていただくようにお願いしている。 ホームページでは入居希望以外の方でも認知症の方の事で困っている方は気軽に訪ねて来ていただきたいと記載しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状・取り組み・課題などを報告し、参加者の皆さんから質問や意見などをいただき今後に活かす努力をしている。	併設の介護付き有料老人ホームと合同で偶数月の最終水曜日に開催している。家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員、施設関係者などが参加し、実施している。現状報告と今後の予定などを発表し、意見交換が行われ、頂いた意見・提案等をホームの運営に活かしたり支援の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時の認定調査の時や、運営推進会議の機会に市担当者へ利用者の暮らしぶりを伝えたり、相談にのっていただいたりしている。 事業所としてできることがあれば協力したいと伝えている。	管理者が新しく試みようと思う事柄について相談し意見交換を行っている。介護認定更新調査は家族に連絡の上調査員が来訪しホームにて行っている。あんしん(介護)相談員が月1回2時間来訪し、利用者の相談内容については口頭で報告していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束をしないのが当たり前と考えている。一般的に拘束しなくてはいけないような事があった時には、まず拘束しなくても安全な方法を一番に考えるので身体拘束しないケアを実施できている。	交通量の多い地区であることから玄関は安全確保のため施錠している。身体拘束のないケアに取り組み、管理者の持っている知識の中で遭遇した場面を想定し話し合いを重ね取り組んでいる。離設傾向の強い方には様子を見て寄り添い声掛けし、ホームの周りを散歩するようにしている。転倒リスクと排泄介助のため家族と相談しセンサーマット、人感センサーなどを使用する方が数名いる。見守りも兼ね、所在確認については職員が絶えず行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待とは何かしっかり理解している。身体的な虐待はもちろん、言葉や態度での暴力をしていないか、互いに気が付いた事があればその場で振り返りができている。リーダーが気になるようなことがあればカンファレンスで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修を受けているが、現在対象者はおらず、必要な方の入居を検討する際にもう1度学びなおしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書・運営規定の全項目を家族と共に確認し、質問などに答え、理解・納得をいただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、その月の行事の時の様子が分かる写真をプリントし手紙で日々の様子などもお知らせしている。面会時には口頭で普段の様子を伝え、家族の意向なども聞いている。意見や要望など聞かれた場合は運営に反映させられるように努力している。	毎月ユニットリーダーから利用者毎のひと月の様子を細かく書いた自筆の手紙とともに5～6枚の写真をプリントし家族に送り喜ばれている。家族の来訪は週1回位から年に数回の方まで様々であるが気軽に来やすい環境作りと意見や要望が話し易いように心掛けている。誕生日にケーキと花のプレゼントを持って来訪される家族もいる。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で職員が意見や要望を言いやすい環境つくりに心がけている。月1回のミーティング時にも話し合いの時間がもうけられている。職員から出た意見は可能な限りこたえるように努力している。	月1回の職員ミーティングで様々な意見を出し合い「愛」のあるホームを目指し取り組んでいる。日々、職員同士話し合える環境作りとお互いがカバーし合える関係作りに取り組んでいる。目標管理制度が始まり自己評価を行い、半年に1回、代表者、管理者、職員による三者面談が行われ、職員の意識の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに合わせた働き方で勤務できるように配慮している。今年よりキャリアパスの導入を始めており、個別のレベルに合わせた目標設定をしている。目標を持ち仕事をしていく中でモチベーションが下がる事がないようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自分の介護力を過信することなく、自分本意にならないように、他の職員の方法を聞いて意見交換したり、リーダーの指導を受けスキルを上げようと努力している。また、社内研修や社外研修に参加できるようにサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平グループホームねっとやきゃりあねっとなどの研修会に参加し、意見交換などを行っている。研修生の受け入れも行っており、更なるサービス向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、ご本人の思いに向き合い、新しい環境や職員を受け入れていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めているものを理解し、私たちはどのように支援していくか具体的にお話し、信頼し任せていただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の時にケアマネージャーからいただいた情報をふまえ、ご本人とご家族が必要としている支援を把握し、グループホームの特色や当施設の理念を説明した上で、その方が暮らしやすい環境はどこなのか一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に教えていただくことは多い。互いに足りないところを補えるような関係作りができている。職員、利用者の枠ではなく、人と人とのつながりを大切に考え、お互いに相談しあえるような信頼関係も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には入居時に「ご家族の絆は何ものにも代えがたい。私たちでは代わることがことができません。」お話し、ご家族にしかできない支援があり、いつまでも絆を持ち続け、ご本人を支えていただく為の協力をお願いし、普段の生活は私たちにお任せいただいて安心してほしいと伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週自宅の手入れに行っている利用者がいる。外出時間や帰宅時間などの制限はしていないので、お正月など遅い時間に帰所されたり、家族や親戚とゆっくり過ごしていただけていると思う。知人が訪ねてきた時は居室でゆっくり過ごしていただいている。年に5回程施設で外出をしており、善光寺に行くと懐かしい話も聞かれる。	友人、知人の来訪が良くある利用者がいる。基本的には居室にて寛いでいただいているが、ホールで面談されることもありお茶とお菓子を出して接待している。利用者からの手紙、電話などの希望も職員がお手伝いし対応している。利用者同士の関係性も重要と捉え、席順を考えたり職員が話の中に入り話題作りをしたりして良好な関係のなかで生活出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が見守ったり会話の間に入ったりし利用者間でトラブルがおこらないように、楽しく過ごしていただけるように配慮している。利用者同士、不安や心配事を話し、励まし合っている姿もみられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大切にし、その後のご本人の様子を伺たり、入院先にお見舞いに行ったり、ご家族の相談にのっている。入院の為退所した方のご家族が、新たに身内の申し込みに再び訪れていただき、入居されたケースもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、ご本人の望んでいることを把握するように努めている。また言葉や行動から見て取れる真意は何なのか話し合い検討している。ご本人の意向も変化するので、その都度検討し意向にそうようにしている。	ほとんどの利用者は何らかの意思表示が出来る。日々の関わりの中で優しく声掛けをし、本当の気持ちはどうか、何が好きで何が嫌いかを考え、出来ること、出来ないことを見極め利用者の不安を取り去るよう職員が自分の目で確認し思いや意向を受け止め、希望に沿える支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族と面談し、生活歴や生活環境を把握できるように努めている。これまでのサービス利用の状況などを把握し、アセスメントにはセンター方式の一部を用いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方が決まっている。利用者1人1人の有する能力を見極め、できる事を行って頂いている。ゆっくり過ごせる時間もあり、心身状態やその日の気分も把握し、臨機応変に対応させていただいている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や関わりの中でご本人、ご家族の意向を聞いたり、気持ちをくみ取りご本人がより良い状態で暮らしていくために、課題とケアの在り方を検討している。利用者1人1人に担当者がいて、計画作成担当者とモニタリング、アセスメントを行い話し合う。話し合いを元に計画作成担当者が介護計画を立てている。	職員は1名の利用者を担当しているが、全職員が全利用者との関わりを持つ意味から、カンファレンスで全員意見を出し合いモニタリングを行い、家族の希望も取り入れ利用者に合ったプランの作成に繋げている。見直しは長い方で1年、新しく入居された方は1ヶ月毎に観察・見直しを行い、1年経過すると6ヶ月毎の見直しに切り替えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、利用者の発言を大切に考え、会話のやり取りや、どんな対応をしたかを、その場にいなくても状況が分かるような記録を心がけている。またユニットごとに連絡ノートを活用し、気付きや検討したいことを書き込み、全員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズに対応していく柔軟な対応を心がけている。ご家族と良く話し合い調整していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに食材の買い出しに、一緒に出掛けると、レジの方やクリーニングの受付の方に挨拶をするを楽しみにしている利用者の御蔭でお店の方から笑顔で挨拶してくださるようになった。散髪も地元の理髪店が出張してくださっている。散歩に行くと畑仕事をしている方に合い挨拶を交わし、限られてはいるが漢書に顔なじみの関係ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけ医を継続していただくこともできることと、施設の協力医がいて月に1回往診をしてくださることを説明し選択していただいている。かかりつけ医を継続する場合には体調や普段の様子を報告し、医師に伝えていただいている。協力医は電話での相談にも気軽に応じてくださり、急変時も迅速に対応して下さる。	ほとんどの利用者はホーム協力医の月１回の往診で対応している。以前からのかかりつけ医で家族対応となっている利用者もいる。協力医には細かな所まで相談に乗っていただき、更に年2回血液検査をお願いし体調管理に努めている。法人の看護師の来訪も週1回あり利用者の健康管理を行いオンコール対応となっている。専門科目や歯科の受診は基本的に家族対応であるが臨機応変に職員も付き添っている。緊急の際には管理者に情報が一本化されるよう徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中でとらえた情報や気付きで、医療的な事柄においては看護師に相談・報告し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療ができるように、またできるだけ早期に退院できるようにご家族ともよく話し合い、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を書面で説明し理解を得ている。心身の状況に変化があればご家族に報告し、さらに具体的な話し合いをおこない協力医との連携をとる。状態が悪くなり介護度が上がることで、ご家族より「ここにはもういられませんか？」と聞かれるくとがよくありますが、日々の医療的なケアが必要でない限り、ご希望してくださるなら、ここで生活していただきたい。と伝えると安心してくださる。	重度化した時の対応指針があり入居時に細かく説明している。状況に変化が生じた時には家族がどうしたいかを考え希望を聞き、ホームとして出来る限りの支援に取り組んでいる。開設以来4名の利用者の看取りを行っており、協力医と連携し指示をいただきながら家族との話し合いも重ね、医療行為が発生しない限り最期まで安心して過ごしていただけるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルがあり、それにそって対応している。応急手当や初期対応の研修もあり、昨年はAEDの使い方の研修も受けた。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団の方々や民生委員の方々に施設内の見学をしていただき建物のつくりを把握していただき、災害時には協力していただけるようお願いしている。今年は水害想定をした避難訓練を全利用者と行った。	年2回、春と秋に防災訓練を実施している。消防署員参加の下、消火、通報の訓練を行い、本年度は水害想定訓練で隣接の特別養護老人ホームの2階への避難訓練も行い、全利用者参加で車イスの方も半数ほどいるが全利用者の避難完了まで30分以内で行えたという。夜間想定訓練も行い、夜勤者2人でどれだけのことが出来るかを確認した。緊急連絡網の実施訓練も行い、その対応を確認し検証をしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも、お手伝いさせていただくという気持ちで接し、さりげないケアを心がけている。みんな同じケアではなくその方に合った言葉がけや方法でケアさせていただいている。1人1人の個性を大切にしている。	日々の介助の中で馴れ合いにならないよう特に気を付けて支援に当っている。その人の気持ちになり職員側の思いを強く出さないようにしつつ、一人ひとりのペースに合わせゆったり穏やかに生活していただけるようにしている。言葉づかいには気を使い、一人ひとりの利用者に合わせ画一的にならないように取り組んでいる。呼び方は希望をお聞きし「さん」付でお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事を押し付けることはせず、ご本人が選べるような問いかけを心がけている。しかし意欲の低下などにより、選択しなっかたり、今までの選択肢をせず活動量も減ってしまうと思われる方には、その気になって意欲を持っていただけるような言葉がけをしたりもする。決して無理強いはしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、それぞれに合わせた対応をしている。今行っていることを妨げたりせずに見守り、軌道修正が必要な場面では、自然に次の行動に導いている。その日その時のご本人の気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・外出時などご本人が服を選んだり、一緒に選んだりしている。整容は基本的にはご自身でしているが、足りないところはお手伝いさせていただく。身だしなみやおしゃれに無頓着になってきてしまっている利用者には声掛けしながらお手伝いさせていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好き嫌いを把握し、苦手な物は変更したり臨機応変に対応している。好みの物を食べられるように献立やおやつに取り入れたりしている。日々テレビを観ながら、「おいしそう。ああいうの食べたいね。」とお話しされた事もヒントに月1回の外注の食事に取り入れたりしている。食事の準備や片づけについては、できる事をできる方が行い、誰も不快な気持ちにならないように配慮しながら行っていただいている。	ほとんどの利用者が自力で食事が出来、状況に合わせキザミ等の対応をしている。職員も一緒に食事を取り、ゆったりとした時間の中、会話も進み楽しい食事となっている。お手伝いは状況に応じて出来る方が下準備、片付け、おやつ作りに参加している。献立は隣接の特別養護老人ホームの管理栄養士が作成し、おかずの調理は特別養護老人ホームの厨房で行い、ごはんと汁物はホームで調理している。利用者に食事アンケートを取り希望を献立に繁栄している。お楽しみ会や節分、夏祭り、七夕等、行事の際には希望を聞いて寿司、ラーメン、弁当等を外注し楽しんでいる。誕生日は3時のおやつの時間にケーキでお祝いしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し個別に量も調節している。少食の利用者にも「残しても良いので少しでも召し上がってみてください。」と声をかけ食べていただいている。箸で上手に食べられない利用者にはスプーンをつけ、自分のペースで食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただくように声掛けを行っている。ほとんどの利用者は自分で行えているが、不十分な方にはお手伝いさせていただいている。就寝前には義歯を外し洗浄液につけていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排せつパターンを把握している。自らトイレに行かない利用者に関しては、できるだけ行動と行動の節目に自然なかたちでトイレに行っていただけるように声掛けを行い、自立に向けた支援を心がけている。	自立の方は数名で他の方は何らかの介助が必要というな状況で、リハビリパンツとパット使用の方が多く、布パンツ使用の方やオムツ使用の方もいる。利用者一人ひとりに合わせ、落ち着かない表情の時には声掛けしトイレへお連れすることと、時間を決め、食事前、就寝前には声掛けをし支援している。トイレの回数を排泄表に表示し状況把握の一元化に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスのとれた食事の提供と、水分の補給をしていただき適度な運動も行えるように配慮している。しかし便秘症の方も多く整腸剤の調整を医師に相談した上で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に最低2回の入浴を行っているが、体調など配慮し希望日を伺ったりしている。入浴時間や回数は個々の希望に沿っている。入浴時は個々のペースに合わせ時間を気にせずゆっくり入っていただいている。	体調や状況に合わせ週2回入浴を行っている。希望により3回入る方もいる。拒否の方もいるが話をし対応している。見守りでの自立の方は2名で他の方は介助が必要となっている。男性職員が2名いるが同性での介助に心掛けている。「ミルク風呂」を行ったり、季節によって「菖蒲湯」、「ゆず湯」、「リンゴ湯」等も行い楽しい入浴となるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンを把握したり、24時間のうちの睡眠のとり方を把握して夜だから寝なければいけないという概念はない。昼夜逆転してしまう場合は原因が何なのか把握する努力をし、ご本人が不調や不安を訴えない場合は安易に睡眠導入剤など使用せず、見守るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の薬の説明書を利用者ごとにファイルし職員が把握できるようにしている。服薬時にはご本人に手渡し服薬確認をしている。体調に変化が見られた場合は看護師に相談し、医師の指示を得られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮していただけるように支援している。利用者が自分の仕事として張り合いを持って行ってくださる方もいる。歩行が不安定な方も気分転換の為、散歩に出かけるととても喜んでくださる。それぞれの方に合わせて楽しい時間が過ごせるように努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩にお誘いしても意欲と体力の低下から断る方が増えてきているが、車椅子など使用し外の空気を吸い、季節を感じてもらえるようにしている。散歩コースにはリンゴ畑があり、春から収穫までの期間を見て楽しんでいる。今年は久しぶりに中野市のばら祭りに出掛け、大変喜んでいただいた。	外出時は半数の方が車イス使用という状況であるが、天気の日には少人数に分かれ周りを散歩したり玄関前で外気浴を楽しんでいる。毎年、「須坂人形博物館」、「中野バラ園」等に年6回、恒例の外出レクレーションにユニット毎で出掛け、外食も交えながら楽しんでいる。希望により買い物にも出掛け、男性利用者に荷物を持っていただくこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時お金を所持している利用者は少ないが、ご本人の希望により所持している利用者は一緒に買い物に行き消耗品を購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話をしたり、受けた電話を代わってお話してもらっている。手紙のやりとりをしている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔で快適な居住環境整備を心がけている。季節の花を飾ったり、季節に合わせた飾りつけをしたりしている。明るすぎない照明を使用したり、冷暖房の風が嫌いな方は直接当たらないように配慮している。	玄関前には外気浴用のベンチとイス、また、前々区長より頂いた菊の鉢植えが置かれている。掃除が行き届き清潔感溢れるホールにはのんびりとした時間が流れ、歌を歌い寛ぐ利用者と柔らかく明るい表情で接する職員がいた。壁には年6回の外出と毎月の行事の様子を紹介した写真が多数掲示されている。廊下にはソファーが置かれプライバシーにも配慮している。空調も風の吹き出し口が直接当たらないよう配慮されており、快適な生活を送れるよう細かな所まで気配りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外の場所にソファーを2つ置き、洗面所を使用した後に一休みしたり、おしゃべりしたりと使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室はご本人の使い慣れた物や、馴染みのあるものを置いたり、テレビを持ち込み好きな番組を好きな時間に観ている方もいる。	各居室には大きなクローゼットが備え付けられ綺麗に整理整頓されていた。使い慣れた家具やテレビなどが置かれ、家族の写真、敬老の日にホームより送られた感謝状、誕生日に担当職員より送られた心のこもったお祝いメッセージ色紙が飾られている。中には仏壇に毎朝ごはんをお供えしお参りしている利用者もおり自由な生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や、自分の部屋が分かりやすいように張り紙をしている。安全に生活できるように物の配置の環境整備に配慮している。		